

作文の部

一 関市教育委員会教育長賞

川の自然を守る

興田小学校 六年 武田 祥真

七月十三日に、川の水質調査とヤマメの稚魚の放流がありました。

ぼくたちの調査では、川にはきれいな水にすむ生き物がたくさんいました。ゴオニヤンマやミスカマキリなど、ややきれいな水が流れていない水にすむ生き物も見つけました。結果としては、興田川は「きれいな水である」と判断されました。

でも、ぼくは、その結果にはなっとくできません。なぜなら、「おもにきれいな水にすむ生き物がいるのだから、けっして「きれいな水」と言ってもいいとは思わなかった。また、「きれいな水」と信じていることに不安もあります。みんなが「興田川はきれいだ」といって情報をう飲みにしてしまい、その信のなるみが、いつか興田川の汚染につながってしまうのではないかという不安です。

体験学習では、ヤマメをつかまえた所へ案内してもらいました。そして、なんと、本当にヤマメをつかまえることができました。この場所で放流されたヤマメたちが、またこの場所にきこって来たのだと考えると、それはすごいことのように感じました。環境を守っていけば、このようにいろいろな生き物が育ち帰ってくることができるのです。

では、川が汚れてしまわないようにぼくたちはできることは何なのでしよう。ぼくは、それは、

「ぼくが環境を守る」という意識を持つことが大事だと思います。そして、ただ持つだけでなく、その意識を実せし行動していくことが大切だと思います。具体的には川に生活排水やゴミ等をすてないことや、洗いを節約すること、食べ残しやあまりを出さない食事をすることなどです。これをまねて全国あちこちの川がきれいになってしまっただのは、「自分一人くらいしか」このくらいなら大丈夫」という「気のゆる

み^んが原因のよ^うな気がします。ぼくは一
人一人の意識が高くなっ^ていかないと川の自
然は守れ^{ない}と思^います。日々の生活の中^で
こ^うした意識がうす^れてしま^わないよ^うに気
を^つけ^{たい}と思^います。